

1. 創業（第二創業含む）について

①普段から課題だと感じていること

- ・第二創業を行おうと考えたとき、普段の業務で忙しく時間がない。また、人材も不足している。
- ・様々な業務を行っているが、資格が必要な仕事に直面するが、必要な資格を持った人材が見つからない。また、そのような悩みを相談できる窓口が分からない。
- ・しっかりとした計画を作成しなければ金銭面での支援をしてもらえず、新規事業への金融支援のハードルが高い。
- ・異業種との情報交換の場が少なく、情報を入手することができない。
- ・新規事業を起こすノウハウがなく、勉強をしようと思っても日々の業務に追われ、セミナー等に参加する時間がない。
- ・低予算で参加できる創業塾のようなものがあれば良い。
- ・創業するには事業計画作りが重要であるが、計画をどのように作成したら良いかが分からず、事業計画作成について一から教えてくれるような支援が欲しい。
- ・起業後すぐに廃業とならないように、起業後も数年間サポートが必要。
- ・どこの窓口に行けば欲しい情報が手に入るのかといった情報交換する場が必要。情報の共有が非常に大事だと思う。
- ・親の考えなのかは分からないが、一流の大学に入ったら、一流の企業に入るべきといった学生の流れがある。

②解決のために企業がすべきこと

- ・創業するにあたっては、何をやりたいかを明確にする。そのうえで同業他社に聞きに行ってみる。窓口で相談する際にも、やりたいことをしっかり伝えることができれば、適切な部署を教えてもらえる。
- ・異業種との交流を積極的にする。本を読んだり、セミナーに参加したり自分磨きをする。
- ・第二創業をする際にはグループを作る。一社で新規事業を立ち上げるのは、スキルに限られ、リスクも大きい。複数の企業でやれば様々なスキルを使うことができ、リスクも少ない。
- ・人材の確保・育成に力を入れ、人材不足・時間不足を解消する。
- ・起業をしたい女性は多いが、相談をする相手がいらない。そのような人たちが相談できるネットワークを構築すべき。
- ・相談窓口の文化祭のようなものがあったら良い。七十七銀行、同友会、商工会などが集まり、そこを見て回りながら、相談してみたい、参加してみたいところに話を聞けるような場があったら良い。
- ・低予算で参加できる創業塾のようなものを立ち上げるべき。

③解決のために行政・関係機関がすべきこと

- ・相談窓口が縦割り過ぎて、横串の立場となるところがない。事業団などが横串の立場となってはどうか。
- ・相談できる役所の担当者や専門家が一か所に集まっているような場が欲しい。
- ・中小企業を支援する団体に所属していない人にとっては、商工会や同友会に入るといのは敷居が高く、入るようなきっかけもない。行政から商工会・同友会を紹介してほしい。
- ・行政に相談するよりも先輩経営者に聞いた方が手っ取り早い。行政には商工会・同友会と連携をして、今回のワークショップのような交流の場を繰り返し提供してほしい。
- ・起業の勉強から起業後のサポートまで、ワンストップでしてくれる塾のようなものを行政で用意してほしい。起業後のサポートは三年くらい欲しい。
- ・起業の際にも、行政が関わっている塾ということで、銀行の融資を受けやすくなったり、産学官との連携も取りやすくなったりするのではないか。
- ・行政のサポートは無料にしない方が良いのではないか。最初は無料で良いかもしれないが、徐々に有料とした方が良い。震災後、お金をもらって起業した会社はほとんど廃業している。自分たちが出したお金ではなく、痛みがないからではないか。有料に慣れることが大事ではないか。
- ・仙台では無料のセミナー等が多数あるが、東京では無料はあまりない。低額でも良いので参加費を取ってはどうか。お金を払って参加することで取り組み方に違いが出るのではないか。
- ・中小、零細、個人企業等それぞれやれることが違う。各企業の規模に合わせたきめ細かいアドバイス、支援があればと思う。
- ・週一回や月一回程度専門家を派遣してもらえるシステムがあればと思う。そのようなサポートがあれば余裕もでき、第二創業がやりやすくなるのではないか。